

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500099		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家 湊川		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区湊川町9丁目12番7号		
自己評価作成日	平成29年5月29日	評価結果市町村受理日	平成29年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成29年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設から7年が経過し、その地域にいつもある存在として地域に馴染んできている。地域の一員として暮らす日々となるよう、自治会長や民生委員、近隣住民や商店(マルシン市場など)の皆様にご理解とご協力を受けて、双方向での行事開催を行ったり、買い物時に地域住民と関わる機会を持っている。
また、運営推進会議や来訪時、行事参加等を通じてご家族との意見交換を行い、また協力してご利用者様の支援を行うことで、ご家族との連携が年々深くなってきている。今後、より地域に根付く事業所となるよう努力していきたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福祉、介護等の事業を全国展開する株式会社ケア21の運営事業所で、「生きがいと楽しさの提供」をコンセプトに、本社主導で体系だった人材育成、教育研修が行われている。六甲山麓の古い街並みに溶け込んだ木造2階建ての建物で、フロアは安全を考慮した桐材で張られ、柔らかい雰囲気を出している。
地域の一員として近隣住民との交流に力を入れており、入居者を支援して自治会の「ふれあい喫茶」に毎月参加し、また近くの市場に買い物や行事見学に足繁く通い友人や顔馴染みとの顔合わせの機会をつくるよう努めている。夏祭り、クリスマス等の事業所行事に近隣住民を招き入れ共に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員全員で共有・実践している。	株式会社ケア21の経営理念を踏まえ、職員全員で話し合って事業所理念を定め、これを玄関及び各フロアに掲示している。朝礼や職員全員で行うコンプライアンスの読み合わせの際等に、繰り返して理念の確認を行い共有化を図っている。	理念は事業所が目指すサービスのあり方を端的に示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方です。職員一人ひとりが理解し、日々入居者に関わる際に具体的展開を意識できるよう、短い語句による表現を併用してはいかががでしょうか。
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に自治会が行っている「ふれあい喫茶」に参加している。また近隣の市場まで買い物に出かけたり、利用者様が作った壁飾りを市場に掲示して頂くなど、地域との交流を図っている。	毎月自治会が行う「ふれあい喫茶」に職員と共に出掛ける。地域の市場で開かれたピアノ・バイオリンの演奏会に招かれ、出掛けた。市場の壁面に入居者の貼り絵作品を展示してもらった。夏祭り、クリスマス等の事業所行事に近隣住民を招き、共に楽しんだ。	
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の運営推進会議を通じて、現状の報告を行い、認知症に対する地域の人々の理解を深めている。		
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、地域の人々からの意見を事業所全体で共有し、サービスの向上・改善に努めている。	偶数月に定例的に開催しており、複数の入居者家族、民生委員、あんしんすこやかセンター職員、管理者などが参加し、運営状況の報告、地域情報の交換、意見交換等を行う。会議で出た意見には、前向きに検討する。議事録は入居者家族にも配布している。	運営推進会議は地域密着型の運営について地域の人の助言や支援を得る重要な役割を担っています。自治会長に出席を要望したり、地域密着型サービスの知見者をメンバーに加える等の工夫を期待します。
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	消防訓練の実施時には、消防署職員と意見を交わしている。また、兵庫区のグループホーム連絡会にも参加している。連絡を密にとり、協力関係を築くためには、更なる努力が必要かと思われる。	運営推進会議に夢野の丘あんしんすこやかセンター職員の参加があり連絡を密に取り連携に努めている。神戸市には事故等が発生した時には適正に報告するよう努めている。消防署には消防訓練計画の報告を適正に行い、署員の指導等を受けている。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に研修を行い、職員全員が理解している。現在、玄関扉の開錠までは至っていないが、スタッフの見守りが行き届きやすい1階フロアでは、日中にベランダ扉などを開錠することがある。	身体拘束に関する研修は、本社が毎年繰り返して行ない、管理者は必ず受講する。事業所で研修資料を用いて禁止の具体例等を示して職員全員に伝達研修を行う。玄関扉は安全上の問題から施錠しているが、抑圧感のない暮らしを実現する工夫を続けている。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全従業員が必ず年1回は高齢者虐待防止に関する社内研修を受けている。そこで、虐待発見時には、通報義務があることも理解している。施設の全体会議でも虐待について話し合い、施設全体で虐待防止に取り組んでいる。	毎年本社による研修が行われ、管理者は事業所で伝達研修を行う。昨年12月には事業所内で発生した事例を基に全体会議の議題として集中的に議論した。職員が悩みや不満を抱え込まないよう適宜面談機会を持ち、また任意に懇談する機会も作っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、利用者のご家族から申し出があるたびに対応している。	権利擁護に関する研修は毎年行っている。成年後見制度を利用している入居者はいないが、制度利用を検討する家族等の支援のため、成年後見支援センターのパンフレットを置いている。必要時には、あんしんすこやかセンターと連携がとれる体制にある。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様の納得が得られるように説明し、いつでも質問等に応じている。	管理者が、十分に時間をとって説明し、納得を得たうえで契約を締結する。入居者及び家族には事前に施設の見学を勧め、質問を受けて疑問解消に努めている。重度化・終末期ケア対応も重要事項説明書の中で説明して納得してもらっている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご本人ご家族の意見を聞く機会を持っており、職員で共有・改善を行っている。運営推進会議等でも、ご家族からの意見・ご要望を受け付けている。	家族等には入居者の様子を伝える毎月の「たより」と共に、運営推進会議の案内を送る。会議には毎回複数の家族の出席がある。会議、その他の機会に得られた家族等からの意見は、検討して運営に生かしている。本社による家族等の満足度調査も行っている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、社内アンケートを実施し、社員の意見・提案を聞く機会を設けている。また、個人面談も行っている。	入居者ごとに担当の職員を決めている。業務の申し送り、朝礼、毎月のカンファレンスで職員の意見を聞くことができる。昨年9月から職員の意見で朝食時間を30分繰り下げた。毎年職員の意識調査と個人面談を行う人事制度を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の取り組みである誰伸び人事制度を実施し、全員をリーダーにすることを目標とすることで向上心をUPさせている。また、技能段位認定制度を取り入れ、今後、介護職の給与に反映していく予定である。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に本社研修が行われ、管理者やフロアリーダーが参加している。他のスタッフへの伝達研修も行っている。また、社内のキャリア支援制度を利用し、研修を受けることもできる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のGHとは、定期的に会議を実施し、訪問・見学を通じて意見交換している。他の法人とはグループホーム連絡会を通して意見交換を行っている。			

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを用いて、本人の生活歴、趣味、ニーズなどをより細かく聞き出し、ケアプラン作成やスタッフ間の情報交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の思いにも耳を傾え、問題解決に向けて一緒に解決できるように関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントでは、普段の生活の様子から本当に困っていることを探り出し、ケアを実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事やフロアの飾りづくりなど積極的に手伝って頂くことで、ホームでのご自身の役割を感じられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から、入居者様の情報をご家族に報告し、ご本人の訴えが強い時、通院が必要になった時には、職員とご家族が協力しながら対応している。また、施設の行事にもご家族をお招きし、ご本人とご家族が接する機会を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の市場での催しに参加したり、利用者様の作った壁飾りを市場内に展示して頂くなど、一部の方には馴染みある場所・人と交流する機会を持っている。	事業所近隣の入居者が多く、買い物や行事見学に近くの市場に足繁く通い、友人、顔馴染みとの顔合わせの機会づくりに努める。馴染みの理美容院の利用を支援する。家族、友人の来訪時には、職員が湯茶の接待に気を配る。季節の便りや絵葉書を送る支援もする。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでは、関わりの深い利用者様同士が集まっておられ、お互いに部屋を行き来されることもある。スタッフが間に入りレクリエーションを行うことで、利用者様同士が関わる機会を持っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて電話連絡を行い、ご家族から問い合わせがあれば相談・フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人に直接要望を聞いたり、困難な場合はこれまでの生活歴やご家族の意見を参考にし、本人本位のサービスを検討している。	主に、入居前の面談で生活歴、趣味、生活習慣などを本人から聞き取り、直接の聞き取りが困難な場合には、家族から聞くようにしている。年明けには、年間の目標や、行きたいところ、したいことなどを聞くようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人と直接会って情報収集に努めている。また、ご家族やサービス利用時の担当者からも積極的に情報収集を行い、これまでの生活歴や生活リズムの把握に努めている。スタッフ間でも情報共有し、できるだけご本人の生活リズムに合わせたケアを心がけている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、記録、カンファレンスを通じて、職員間で情報を共有し、入居者様の現状把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の様子を記録に残し、必要に応じて往診医やナースに報告している。また、サービス担当者会議を通じて、ご本人に必要なケアを検討している。	モニタリングは毎月行う。入居者に体調の変化等が生じたときは、その様子を記録して、かかりつけ医と訪問看護師に報告し、意見を聞いて介護計画に採り入れる。半年に1度あるいは必要時に家族を交えて担当者会議を開き介護計画を更新する。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録と合わせて、重要事項はケアノート(連絡ノート)を使用し、職員間で情報共有することで計画や実践に努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の変化に気づき、ご本人やご家族との意見交換を大切にすることで、新たなニーズの発見、サービス提供を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会活動への参加、社会資源と言える近隣商店での買い物、ご家族との面会などを通じて、本人の生活の質の向上に努めている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科と医療連携を結んでおり、入居者様の急変時には速やかに対応して頂いている。専門病院受診の際には、すぐにご家族に連絡し協力し合っている。	1階と2階の各ユニットに月2回、2か所の協力医療機関医師による往診がある。入居者及び家族の希望で、それぞれの往診医師をかかりつけ医としている。その他の専門病院等の受診については、緊急やむを得ない場合を除き、家族と協力し合っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を通じて、入居者様の現状報告を行っている。また、介護職では判断できない体調変化などが起これば、24時間電話対応での指示を仰いでいる。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の総合病院と提携し、入院も円滑に行えるシステムも構築している。入院時には、病院の相談員と連絡を密にし、適時、見舞いにも行っている。	入院に際しては、規定の介護サマリーとお薬手帳を病院側に提出して情報提供する。入院先の病院に見舞いと容態確認のために訪問し、地域連携室相談員と情報交換している。退院時には、家族と共に病院のカンファレンスに出席している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化・終末期ケアについて説明しご家族の同意を得ている。必要があれば、早い段階で往診医とご家族、施設職員が集まり、終末期のあり方、緊急時の対応について話し合っている。	契約時に重度化対応・終末期ケア対応の指針を説明している。入居者の容態が変化した時は、早い段階で、かかりつけ医、訪問看護師、家族、管理者が集まり、かかりつけ医が親切に相談に乗って、家族の意向も聞き対応の方針を定めて同意書を受領する。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは、施設内に掲示している。又、定期的に本社での研修も行っている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は日中・夜間想定での消防避難訓練を行い、スタッフは避難経路・場所の確認、設備の確認ができています。運営推進会議では、ご家族や地域の方に、災害時に少しでもご協力いただけるように働きかけています。	年間2回消防訓練(消火訓練、避難訓練、通報訓練)を行い、消防署に報告している。日中と夜間想定を交互に行う。実際に見てみたいと参加した家族から建物内階段に物を置いているとの指摘を受け、これを取り除き全体会議で避難経路の確認を行った。	災害や緊急事態発生時には、事業所だけの対応には限界があり、地域や近隣住民の方の協力が不可欠です。兵庫消防団にも協力をお願いするのはいかがでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が接遇マナー、人権擁護について受講しており、利用者様一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	接遇マナー、人権擁護は毎年の本社実施の研修テーマであり、職員にも毎年研修を行っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしないよう配慮している。介助が必要な時も本人の気持ちを大切に、さりげない言葉かけをするよう努めている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の声掛けや買い物の際には、できるだけ本人に希望を聞いた上でやっている。また、ティータイム時の飲み物も、ご本人の希望があれば、できるだけ希望に沿い、自己決定の機会を持っている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・更衣等の場面において常に声掛けを徹底することで、個々の生活ペースを尊重するように心がけている。散歩等の訴えがあった時にはなるべく希望にそようにしている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、利用者様ご本人に服を選んで頂いている。その他の方は、スタッフが一緒に選んだり、ご本人の表情から気持ちを汲み取り、好みや季節に合った服装をして頂いている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、買い物・調理・配膳等を手伝っていただき、入居者様のADLに合わせて力を発揮して頂いている。	テレビを消してラジオの音だけの静かな雰囲気の中で、会話を楽しみ落ち着いて食事が摂れる工夫をしている。茶碗、箸、湯飲みとマグカップは入居者の自前である。下膳、食器洗い等入居者に出来る事は、職員と分担、協働する。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量・水分量を介護記録に残し、不足を確認することで、入居者様の体調管理に努めている。こまめな水分摂取も心掛けている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行っている。毎週、訪問歯科の口腔ケアも受けており、必要に応じて治療も行われる。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を参考に、排泄のパターンを確認し、カンファレンスで自立に向けたケアを検討・実践している。	入居者全員について介護記録により排泄パターンとサインを把握している。排泄記録をチェックして、さりげない声掛けをしてトイレに誘導している。入居者のADLに合わせて、夜間はポータブルトイレも使用しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が見られる入居者様には、牛乳・ヨーグルト・食物繊維を摂取して頂き、食事での排便を促している。また、医師や看護師に相談し、腹部マッサージやお薬の調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、できるだけご本人の希望に沿って入浴して頂いている。また、入浴剤や季節が感じられるものを入れ、入浴を楽しんで頂けるように工夫している。	週2回の入浴を基本としている。本人の希望を尊重するが、入浴前にはバイタルチェックで体調を確認する。風呂嫌いの人には、声掛けの職員を変えるなどの工夫もするが、無理強いせず、清拭により清潔を保つ。入浴剤を入れたり季節湯を楽しんでもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を考慮し、休息を取って頂いている。夜間、入眠時間の短かった方には、昼寝を勧めるなど、体調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、申し送りやノートへの記入を行い、報告・連絡・相談を徹底することで、現状の把握や様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でのレクリエーションや家事手伝いにお誘いし、積極的に参加して頂いている。また、散歩や買い物など外出の機会を持って頂き、できるだけ刺激ある生活を送って頂けるよう支援している。一人ひとりの嗜好品や楽しみごとに対しては、更なる工夫が必要かと思われる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様から希望があれば、できるだけ屋外へ出る機会を持っている。また、日常の会話の中で、普段行けないような場所への外出希望があれば、ご家族にも声をかけ、施設の遠足で行くこともある。	出来るだけ多く、公平に外出機会が持てるよう記録している。日常的に散歩に出ており、近くの市場での買い物や行事等に頻繁に出かける。毎月、ふれあい喫茶も楽しみにしている。遠方への外出、墓参りの希望があるときは、家族に協力を呼び掛けている。	外気にあたる事は健康にも良いので、外出したくないという方を誘って、ベランダや中庭に出て日光浴をしたり花を觀賞する等をしてみてはいかがでしょうか。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金で必要に応じて、入居者様の希望する物を購入している。又、個々の能力に応じて、スタッフと一緒に支払いもしていただいている。お金の不安を訴えられる方には、ご家族に了承を得て、ご本人に財布やお金を所持して頂くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	予めご家族の了承を得て、ご本人より訴えがあった場合など、必要に応じてご家族と連絡を取って頂いている。また、家族や知人との手紙のやり取りができるように、スタッフがお手伝いしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には、スタッフと利用者様で協力して作成した季節の飾り付けをしている。又、利用者様が快適に過ごせるよう、室温等には常に注意している。	フロアは桐材張りで、食堂テーブルも同系色の材木製でソフトな雰囲気である。厨房と事務スペースはカウンターで仕切られた対面式で広く明るい空間を造り出している。広い壁面には共同制作の貼り絵や諸行事の写真を貼付し入居者、来訪者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファ、居室など利用者様にとって居心地がよい場所で過ごして頂いている。気の合う利用者様同士で、楽しそうに会話されることも多い。また、各フロアを歩き来することもある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来る限り自宅で使っていた家具を持ってきて頂いている。又、ご本人の希望によって必要なものを持ち込んで頂き、快適に過ごして頂けるよう工夫している。	入居者が使い慣れた馴染みの家具、家電、身の周りの物を持ち込み、居心地の良い居室が出来るよう支援している。安全面から、テーブル、椅子の持ち込みは家族との相談事項としている。入居後は、適宜布団干しをする等、快適に過ごせるよう支援する。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる処に手すりが設置されている等、入居者様の安全・自立を考慮した造りになっている。		